

望郷の念いつもそばに



●小規模多機能型居宅介護事業所と市認可保育園を開設した

鈴木 敏男さん

本宿町在住 53歳

題字は
林文子 横浜市長

人物風土記

○：1年半ほど前から地元町内会の署名を集め、4月の開所にこぎつけた。旭区3ヵ所目という「侯川で訪問と通い、宿泊を組み合安心する」。小規模多機能型居宅介護事業所の認知度アップを目指すとともに、旭た方がいろんな人との接触があるし、利用者や家族もこれから福祉や介護施設のあり方を模索していく。

○：旭区の植木屋の家に立。マンション新築や管理を手がけてきた。日々、物件の清掃に足を運び、入居者や近隣住民と交流。保育分野への新たな進出は、そんな対話がきっかけだ。「まったくの素人だったけど、自分の手でつくりたかった」。新規事業は当初3人からのスタートだったが、賛同してくれる仲間は40人超にまで膨れ上がった。

○：少年時代は「ごく普通の学生だった」。市立万騎が原中学校の出身で、OB仲間も多い。「旭区は何があつても故郷。いいことも悪いことも、地元じやみん

生まれ、大学を出てフーラワな知られちやうから」と苦笑い。「1日に60回は逃げ出したいと思つてた」と振り返る。大学の応援団時代は、当として全国を転々とし「特別これという出来事はない」というほど

擢り、その後は新店舗開発担当で東北の新店舗店長に抜擢され、その「じごき」の渦中にいた。4年間で培つた心技体は、今は身に染みついている。

○：定年まであと6年。自分が行きたいと思える、理想の施設をつくりたいと、いうのが目下の夢だ。「近くにスーパーやパチンコ屋がある天風呂があつたらいいな」と笑うが、その瞳は真不純な動機って言われるけれど」と笑うが、その瞳は眞剣だ。「いろんな人に聞まれて暮らしたい。その方が断然楽しいに決まってる」